

オーブン カレッジ

コロナ禍で約3年間も寄港がなかった外航クルーズ客船の受け入れが、2023年3月から本格的に再開された。4月28日には、横浜港の大きな橋国際客船ターミナルに日本船社の「飛鳥II」と「にっぽん丸」、新港ふ頭客船ターミナル（ハンマーヘッド）には横浜港に初寄港となる外国船社の「バイキング・オリオン」、大黒ふ頭客船ターミナルに「MSCベリッシマ」と「クイーン・エリザベス」が着岸した。国内の港にクルーズ客船が5隻同時に着岸するのは初めてであり、クルーズ市場の回復を示す象徴的な出来事となった。

初寄港の「バイキング」

アフターコロナのインバウンド動向

2019年3月と2023年3月の訪日
外客数(インバウンド)の比較

国・地域	総数 Total		
	2019年 3月	2023年 3月	同月比
総数	2,760,136	1,817,500	-34.2
韓国	585,588	466,800	-20.3
中国	681,279	75,700	-89.0
台湾	402,433	278,900	-30.7
香港	171,430	144,900	-15.5
タイ	147,443	108,000	-26.8
シンガポール	43,687	52,700	20.8
マレーシア	50,615	38,900	-23.1
インドネシア	39,609	33,200	-16.2
フィリピン	48,277	46,600	-3.5
ベトナム	47,881	53,600	11.9
インド	17,752	14,900	-16.1
豪州	44,175	45,200	2.3
米国	176,564	203,000	15.0
カナダ	37,959	36,400	-4.1
メキシコ	5,740	5,800	1.0
英国	38,810	34,800	-9.9
フランス	29,408	21,200	-27.9
ドイツ	28,659	25,900	-9.6
イタリア	14,956	12,700	-15.1
スペイン	8,916	7,600	-14.8
ロシア	11,701	3,400	-70.9
中東地域	11,726	12,300	4.9
その他	105,730	95,000	-10.1

出典：日本政府観光局(JNTO)「訪日外客数」(2023年3月推計値) 2023年4月19日公表に基づいて作成
注：「コロナ禍の影響を避けるために2019年実績と比較している。2019年は確定値、2023年は推計値である。」

と小さいが、ラグジュアリー・プレミアム・カジュアルというクルーズ客船のランクの中では、最上級のラグジュアリークラスに位置している。横浜港をはじめとした各港は、富裕層が多く、より多くの消費支出が期待できるラグジュアリークラスの寄港の増加を目指している。新港ふ頭客船ターミナルは、大さん橋国際客船ターミナルとの差別化

である。コロナ禍前には多かつた中国、韓国、台湾のうち、韓国と台湾は約70〜80%の水準まで回復しているが、中国に関しては約10%程度である。中国が回復すればインバウンドはコロナ禍前の水準に戻るが、それにはまだ時間がかかる。

他の国々では、コロナ禍前の水準にはほぼ回復した、または上回っているのは、アメリカ、オーストラリア、欧州の各国である。欧米豪の各国は物価高のため物価の安い日本への旅行は魅力的であり、かつ、円安が進んだことで拍車がかかっている。

欧米豪のインバウンドにとって、日本への旅行の機会に限られるため、十分な準備を行い、長期の日程で、消費支出額も多くなる。欧米豪のインバウンドをターゲットに、東京では欧米ブランドの高級ホテルの開業が相次いでおり、名古屋でも予定されている。

欧米豪のインバウンドは、中国などのアジアからのインバウンドとは違った目線で、日本の歴史や文化、日常生活に触れる機会を求めている。各地での魅力ある体験により誘客や経済波及効果の拡大が期待できる。

欧米豪向けの 魅力ある日本体験を

オリオン」は約5万ト、乗客約1000人で「MSCベリッシマ」の約17万ト、乗客約5000人と比べる



相山女学園大学 准教授
現代マネジメント学部
水野 英雄

みずのひでお 国際経済学、貿易政策、経済教育。名古屋大学大学院経済学研究科博士課程後期課程退学。

で、ラグジュアリー・プレミアムクラスの受入促進のために、CIQ(税関・出入国管理・検疫)施設だけでなく、飲食店・土産物店等やフライ&クルーズによる前泊・後泊のためのホテルがある。

コロナ禍で激減したインバウンドは、順調に回復している。表は、日本へのインバウンドが最大の3188万人であった2019年と2023年の3月の各国からのインバウンドの比較